

Ⅲ. 人間社会学科の人材養成の目的と3ポリシー

【学部の人材養成の目的】

未来デザイン学部は、現代社会が直面する問題解決のためのコミュニケーションスキル・マネジメントスキル・IT スキルに関して優れた専門性を有し、多様な価値観に基づく豊かさの創造に寄与できる人材を養成することを目的とする。

【学科の人材養成の目的】

人間社会学科では、社会生活を送るうえで必要となる知識、理解、汎用的技能、態度・志向性、コミュニケーション能力やリーダーシップ、創造的思考力の習得とともに、経営学、社会学、心理学の各分野に関する専門的知識、及び生涯成長し続けるための基盤となる生涯学習能力を有し、地域社会に貢献する次のような人材を養成する。

- ①人、モノ、お金、情報の活用を学び、マネジメント力とコミュニケーション力を有した地域社会に貢献できる人材
- ②社会学の知識と社会調査のスキルで現代社会を読み解き、新しい地域社会や価値の創造に貢献できる人材
- ③対人関係及び人間の悩みや問題について、「こころ」を幅広い観点から学び、その理解をもとに「こころの時代」の多様なニーズに応える人材

人間社会学科ディプロマ・ポリシー

人間社会学科は、「科学的市民」の育成という教育理念のもとに以下の資質や能力を身につけ、所定の授業科目を履修して卒業に必要な単位を修得した学生に、学士（工学）の学位を授与します。

1. コミュニケーション力

論理的な思考力、記述力、発表と議論の能力を有し、他者と適切なコミュニケーションを取ることができる。

2. 課題を発見し、問題を解決する力

人間及び社会に関する知識を活かして、現代社会の課題を解決することができる。

3. 自らを律し、学び続ける力

目標達成のための計画を立案・遂行する能力を有し、社会の変化に柔軟に対応できるよう知識・能力を自主的・継続的に身につけることができる。

4. 他者と協力して目的を達成する力

文化・社会の多様性を理解できる幅広い教養と豊かな人間性を有し、他者と協力して目標達成に向けて貢献できる。

5. 専門的知識・技能を習得し、実践する力

人間及び社会の専門的な知識やスキルを理解して活用する力を有し、現代社会における多様な課題に応用して分析や解決をすることができる。

6. 総合力

これまでに獲得した能力を総合的に活用して、社会に存在する課題や自ら立てた新たな課題を解決し地域社会の発展に貢献することができる。

人間社会学科カリキュラム・ポリシー

人間社会学科では、基本教育科目、専門教育科目の有機的な結合によって、経営学、社会学、心理学の各分野の専門知識と専攻分野を通じて学士力を培うことを目指したカリキュラムを設計します。このことを明確にするために、ディプロマ・ポリシーの各項目を達成するために必要な授業科目の流れや、各項目と授業の整合性を体系的に理解できるようカリキュラム・フローを作成します。また、各授業科目の達成目標とディプロマ・ポリシー各項目の関連性を集約したカリキュラム・マップを作成します。さらに、教員団はその組織的関与により、常にカリキュラムの点検評価、及び改善を行います。学修成果やカリキュラムの点検評価の方針をアセスメント・ポリシーとしてまとめています。

1. 豊かな人間性及び幅広い教養を身につけるため、基盤能力、学修スキル、コミュニケーション力を培う基本教育科目を配置します。
2. 専攻分野に必要な基本スキルを育成するための科目を配置し、領域ごとに最適化された専門知識・技能修得のための専門教育科目を配置します。
3. 基盤能力と専門的知識・技能に関連する科目を体系的、効率的に修得できるよう配置します。
4. 自ら学ぶ力の醸成や能動的学修をサポートするため、充実した学内 LAN 環境、e-learning 環境などの優れた IT 環境を提供します。
5. 現代社会の様々な課題に対応する力を育成するため、社会全般に対する基本的知識を身につけると同時に、経営学・社会学・心理学の三分野の最新かつ高度な知識及び技能を学ぶことのできる専門教育科目を配置します。
6. 次代の社会を担う人材として実践的な経験を積むため、各科目に現代社会の様々な課題を題材として取り入れ、少人数グループで行う演習科目や実験科目、フィールドワーク科目等を配置します。
7. 教育目的達成度調査結果、学生調査などに基づくポートフォリオ面談を行い、学生個々の学習成果とコンピテンシーについて長期的なルーブリックを用いた形成的評価を行います。
8. 1 年次から 4 年次までに修得した知識・技能・態度の到達度と獲得したコンピテンシーについて単位取得状況、GPA、卒業研究 により総括的評価を行います。

北海道科学大学アセスメント・ポリシー

－ 3つのポリシーと学修成果の評価に関する方針－

本学ではディプロマ・ポリシー (DP)、カリキュラム・ポリシー (CP)、アドミッション・ポリシー (AP) の3つのポリシーに基づく教育の実施と不断の改善・改革を教育の内部質保証の中核ととらえます。本ポリシーは、この3つのポリシーそのものの妥当性と、これに基づく教育の実施にあたっての学修成果及び教育成果（大学、プログラム、授業科目、学生の達成度）の評価の方針を定めたものです。これらの結果をそれぞれの対象にフィードバックするとともに、全学的に集約して教育の改善を組織的に継続して行います。

■教育理念・人材養成の目的と DP の整合性

教育目的達成度調査、学生調査、外部試験などの結果と下記の学科、授業科目、学生に関する評価結果を全学的に集約し、大学全体での学修状況を評価します。また、学生の進路（就職率、国家資格取得率等）や卒業生、企業アンケート、産業界からの意見聴取などから、各学科の DP が社会における顕在・潜在ニーズを踏まえているかとともに、学修成果の水準設定の妥当性などを確認します。

■DP-CP の整合性と学修成果の評価基準

・学科（教育課程）を対象とする評価

単位取得状況・GPA・進級状況、および学科の定める資格の取得状況などで、学年ごとの学修状況を評価します。また、毎年行う教育目的達成度調査、および1・3年次に行う大学 IR コンソーシアム学生調査、汎用的技能・志向性を測定する外部試験などを集計した結果から、教育課程全体を通じた学修成果・教育成果の達成状況を評価します。さらに、学科の所定の科目の単位取得状況と卒業研究により、教育課程の体系性と専攻分野における知識・技能・態度の達成度とコンピテンシーを総括的に評価します。

・授業科目を対象とする評価

成績分布、授業改善アンケート、および教育目的達成度調査などの結果とカリキュラムマップ詳細版などを用いて、個々の科目の目標の達成度合、達成目標と DP との整合性、授業の内容・方法（能動的学修の充実や質的転換の観点）、成績評価手段などに関する評価を行います。

・学生を対象とする評価

教育目的達成度調査結果、学生調査結果などに基づくポートフォリオ個別面談を行い、

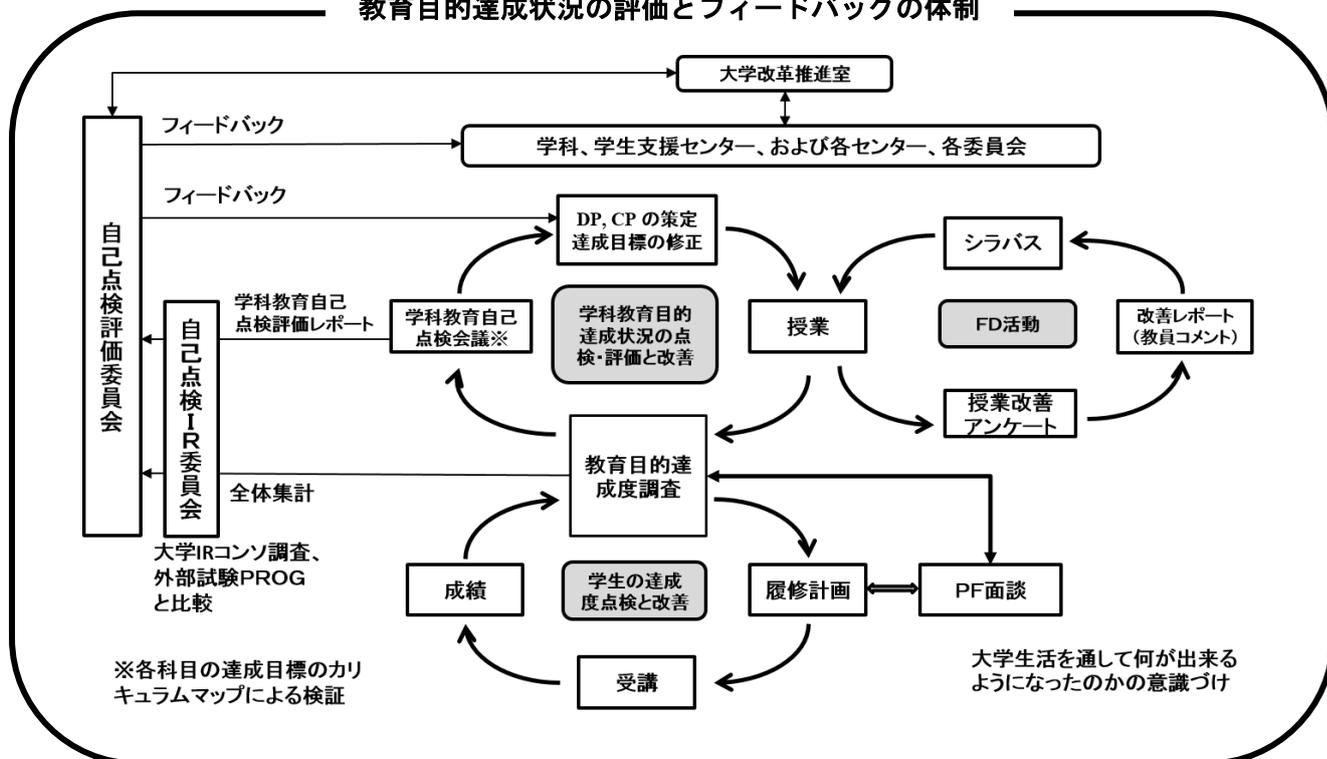
個々の学修成果とコンピテンシーに関する長期的ルーブリックにより、その時点でどの程度教育目標を達成できているかの形成的評価を行います。

学生個々の単位取得状況、GPA、卒業研究などにより、専攻分野における知識・技能・態度の達成度とコンピテンシーを総括的に評価します。

■DP、CPに基づく教育とAPの整合性

入学生に求められる学習成果（学力の3要素）について、入学試験結果、新入生学力調査結果、および1年前期に実施される汎用的技能・志向性に関する外部試験結果によって測定を行います。この結果に基づいて、各学科のAPおよび入学者選抜方法の妥当性について評価します。

教育目的達成状況の評価とフィードバックの体制



学科教育自己点検会議における主要な検討事項

学生個々の学修の進捗とともに、

- ①プログラム全体の中で個々の授業科目が学生の能力育成のどの部分を担うかについて教職員の認識が十分か
 - ②他の授業科目等と連携・関連し合いながら組織的に教育を展開できているか
 - ③学修成果・教育成果をプログラム共通の考え方や尺度で評価し、その結果をプログラムの改善・改革につなげるというPDCAサイクルが回る構造になっているか
- について、検証を行います。

人間社会学科 アドミッション・ポリシー

① 基本方針

グローバル化や少子高齢化、デジタル化が進展し、世の中のシステムや価値観が多様化、複雑化する社会情勢の中で、変化に柔軟に対応し、自律した職業人として活躍できる人材への社会的ニーズがあらゆる業種において高まっています。また、仕事のみならず地域社会への貢献、健康で自分らしい生き方の実現を通し、これからの社会の新しい豊かさの創造に寄与する人材の育成もますます希求されています。

人間社会学科では、このような時代の要請に応え、経済の基盤となる経営学、地域社会の発展の基盤となる社会学、人間関係の基盤となる心理学の3つの専攻領域を設け、わが国及び北海道の経済産業や地域社会の活性化を担う次世代の人材を育成します。

そのために、以下のような資質・能力・意欲を持った学生を受け入れます。

② 求める人材像と学力の3要素

求める人材像

求める人材像	知識 技能	思考力 判断力 表現力	主体性 多様性 協働性
わが国及び北海道の新しい市民社会の創造に向けて積極的に活動する意欲を持つ人	△	○	◎
人間関係に強い関心を持ち、地域の人々との関わりの中で社会性を高める意欲を持つ人	△	○	◎
各専攻の専門分野を学ぶための基礎学力を有し、高い勉学意欲のある人	◎	○	△

③ 学力の3要素と求める多面的な評価

学力の3要素

知識・技能	→	学力試験	調査書	発表	推薦書	集団面接	口頭試問
思考力・判断力・表現力	→	学力試験	調査書	発表	レポート	個人面接	
主体性・多様性・協働性	→	推薦書	集団面接	自己推薦書	集団討論		

④ 入学者選抜方法における評価の比重

入学者選抜方法	学力試験	調査書	発表	レポート	推薦書	集団 面接	個人 面接	自己 推薦書	集団 討論	口頭 試問
新ガリレオ選抜	△	—	○	◎	—	○	△	△	◎	—
学校推薦型選抜(系列校)	—	○	—	○	○	◎	—	—	—	△
学校推薦型選抜(指定校)	—	○	—	—	○	◎	—	○	—	△
学校推薦型選抜(公募)	△	△	—	—	○	◎	—	○	—	—
自己推薦型選抜	△	○	—	—	—	—	○	◎	—	—
一般選抜	◎	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一般選抜(共通テスト利用選抜)	◎	—	—	—	—	—	—	—	—	—
外国人留学生選抜	○	—	—	—	—	—	◎	—	—	—

⑤ 入学前に習得すべき内容・水準

・個人及び個人を取り巻く社会を理解し、その諸問題を解決するための幅広い分野の基礎知識を習得していること。

・高等学校等において、明確な目的意識を持って主体的に学ぶ姿勢を経験していること。

・それぞれの専攻(経営学、社会学、心理学)において必要な基礎学力を有していること。

※記号(◎, ○, △)は重要度の順序を表しています。